

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二(フ)中層(株)丸九〇四 電話(03)3377-4649

FAX(03)3399-5367

振替100100191584321 労働中央労働本店No.1154163

購読料 月額700円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

まさか五千票を超える勝利になるとは
「社会通信」一千号に花

気力と体力の続く限り発刊を

労働者運動の目標・方向を示せ

日教組「四〇〇日抗争」

勝利の源は「団結」

全力で「9条ネット」

原発「トラブル」

やっぱ保守王国?

「奔流」の火、燃やし続けろ

統一地方選で勝った

子どもも「9条ネット」参加

思うがままに「若者との対話

理論の力

地域労働運動を労働運動再生の力に

介護保険制度の渦の真っ只中

「日本の青空」上映運動

苛 敵 誅 求

問われる運動と組織する側の資質

運動の中で多くの先輩と邂逅

農業問題で新たな「運動論」構築中

反処分闘争の勝利

今こそ広範な戦線の構築が必要

「よくやっただ」

千の風に乗れ!

読者からのおたより

相田 邦夫……………2

塚本 鉄男……………3

塚本 健……………4

横堀 正一……………4

工藤 伸……………5

岡安 敏雄……………5

一読者……………6

玉木 節子……………6

早田 昌二郎……………7

千葉 常義……………8

町田 俊治……………9

養輪 泰臣……………10

樋口 俊士……………11

中村 平治……………12

柳田 祥子……………13

川崎 雄二……………14

鈴木 雄次……………14

西本 章……………15

河野 康臣……………16

島山 勝巳……………16

名古屋 哲一……………17

山崎 秀一……………18

菅原 須摩子……………19

上野 義昭……………20

旬刊 社会通信

NO. 1001

二〇〇七年六月一日号

二〇〇七年六月一日発行
(毎月一日・十五日二回発行)

まさか五千票を超える勝利になるとは

「社会通信」一千号に花

四月八日夜半、本人も選対もビックリするような選挙結果だった。日本海側初の政令指定都市新潟市（人口八十一万人）の市・県議選が同日投票を迎え、まさかの五千票を超える大勝利であった。三期目を目指す小林義昭新潟市議にとっては茨の道の選挙戦であった。前回は全市で二千百票の最下位当選だからである。今回は政令市で市・県議選ともに九日間の選挙で同日投票。しかも小林市議の西区の選挙区は、市議十一人区で現職の実績のある候補がひしめいている状況では、逆立ちして頑張っても一人目の最下位もむずかしいと予測された。昨年の五月に逡巡する小林義昭の気持ち動かしたのは新潟をはじめ県下の仲間の支えと新社会党県本部委員長の責任感と七月の参院選に向け、全国を駆けめぐる栗原君子新社会党中央本部委員長の使命感があったからではないか。これまでの党運動の総括としての選挙闘争だった。

小さな力で勝ち抜くには長期間の粘り強い選挙しか勝利できない。以下はその一端の報告である。

昨年六月に自宅近くの四〇二号線の目抜き通りに事務所を構え、七月から月二回、新潟市はじめ全県下の仲間が地元三小学校区にビラ入れを行い、三月に入り毎週一回の動員体制をとり、地元の有志も連日の行動に参加した。

もちろん小林候補夫妻、息子さんの行動もあったのはいうまでもない。Sさんは大病の妻の面倒とあわせ、連日候補者に負けない位の行動を自立的に行い、多くの仲間を動かす原動力となった。M選対事務局長やT後援会事務局長の九カ月間の休みない行動力を支えた妻たち。それぞれ候補夫妻以上の働きであった。

九カ月間の選挙戦の第一ラウンドは、十二月三日の励ます会であった。一四〇名収容の会場を満杯にし、小部屋も借りて一八〇名余が参加。二月～三月にかけて、地元三小学校区で各一回の市政報告を県議候補と協力し合って開催。先輩の小林進元市議の地元の内野地区でも市政・県政報告を行い、四カ所で三百名近い人たちに二期八年間の議会報告、地域活動の報告等をスライドを使い、わかりやすく報告し、各地で質問、激励を受けて、地元の皆さんに小林義昭の人柄がしだいに受け入れられていった。四カ所の集会に人を集めるためには会報を配布し、電話をかけ、呼び込み街宣を行い、スタッフ総出で盛り上げをはかったのはいうまでもない。

告示直前まで四千枚の公選ハガキを有効に差し出す支持カードの点検作業は、地味ではあるが一票、一票を大切に作る作業として当然のことであった。まさに千里の道も一歩（一票）からである。本番中の個人演説会は、地元一カ所であったが一一五名を集めて盛り上がった。それでもまだ当落線上一歩抜け出して当選するのかなあという状況だった。最後まで気を抜く事なく、まだ二百、まだ三百足りない一票、一票の獲得に走り回った。まるで今選挙はみんな優勝とった「満塁逆転ランニングホームラン」のような選挙だった。

十一名区に十五名が立候補し、誰が落ちるか分からない選挙で、結果は、今回立候補者中、前回、一位、二位の候補が落選するという予想外の事態となった。

社会通信何号かは忘れたが、九十年前、大正の初め、学習院の学生に夏目漱石は、権力と金力の講演を行っている事を思い出す。働く者の代表を議会に送り出すのは、一地方議員の選挙と言えども反権力、反金権の闘いの一里塚ではないだろうか。滝野さんの友人、小林義昭を五一九五票の六位当選で、社会通信一千号に花を添える事ができ喜びも倍増だ。

(相田 邦夫・新潟県三条市)

気力と体力の続く限り発刊を

滝野忠さん、滝野嘉津子さん一千号発刊おめでとうございます。本当にご苦勞様でした(月並みですみません)。

私が滝野忠さんと最初にお会いしたのは三二年前の一九七五年と記憶しています。

職場の先輩武井昭彦さんに「学習会をするのに良い先生がいる」と言われて国際労研の事務所に連れて行かれました。そして、企業内の青年部活動を担っていた仲間五、六人で毎月二回、土曜日の午後の学習会がはじまりました。

最初のテキストは、向坂先生の『労働者の世界観』でした。滝野さんは、学習の後の職場状況についてのたわいもない討論にも係わらず、常に私たちの意識レベルにあった適切なアドバイスをしてくださいました。『共産党宣言』等の古典の学習、とりわけ向坂先生の『資本主義蓄積の一般的法則』の一泊での学習会は、本当に勉強になりました。滝野さんは、『進路』の廃刊、『社会通信』の創刊という最も多忙な時期にもかかわらず、ただの労働者に過ぎない私たちのために時間を割いてくれたのです。ですから、創刊号からの読者です。

いまは、『社会通信』が届くと直ちに開封し目次を見て巻頭言を読みます。最も正確にその時々々の政治・労働情勢を把握でき、全国で活動している仲間励まされます。インターネットで情報が容易に入手できる今こそ、私にとって一つひとつの現象を捉え資本主義社会の本質を明快に指し示してくる『社会通信』が活動の支えになります。

二〇〇四年十一月に滝野さんから執筆の依頼がありました。今度ばかりは断れないと観念した私は、公的年金制度を中心に寄稿しようとして九九年からの社会保障に係る『社会通信』を読み返しました。その中で、滝野嘉津子さんの介護保険創設時の徹底した制度矛盾の分析と、その後の要介護者の置かれている現実が何号にもわたり記載されていました。老人福祉から介護保険へは、社会保障の質的転換であり資本主義社会における社会保障の限界が明確に述べられていたのです。滝野さんからの執筆依頼は、「塚本君、資本主義における社会保障制度の本質を学ぼうよ」との指摘(叱責)だったのです。

一千号に至る間に私にとっても、総評の解散など何回か選択を迫られる時がありました。それでも『社会通信』だけは読んでいました。一部欠落があるものの創刊号か

ら大切にフアイルしてあります。また、家族の不幸があつた時、滝野忠さん、滝野嘉津子さんが、我が事のように悲しんで頂いたことを忘れることができません。

私がおここにいれるのも、解雇され、撤回闘争を十三年闘つてくれた仲間そして共に闘つた元の職場の仲間、地域の新社会党の仲間がいたからです。『社会通信』があつたからです。安倍首相が、任期内の憲法改悪を明言する今、「社会通信の三〇年（上・中・下）」を読むにあたり、ふたたび自分がどう生きるかが問われていることを痛感しています。

気力と体力の続く限り『社会通信』の発刊を心からお願ひ致します。

（塚本 鉄男・横浜市）

労働者運動の目標・方向示せ

社会通信一〇〇一号からの第二ラウンドの出発、心からお祝ひいたします。

労働者の生活実態、労働者運動の現実に着目した取材と情勢分析、一貫した論調が社会通信の特徴です。今後もこの姿勢を貫いていかれることを希望します。

情勢分析は、労働者運動の当面する課題、対決すべき敵、運動の目標と向かう方向を確認するための前提作業です。この作業は、まず自発的に各職場の運動の当事者によつておこなわれます。情勢分析は、労働者の生活実態のなかにどのような問題がおこっているか、その問題が独占資本を中心とする社会的蓄積過程のなかで、どのようにして生じたかをあきらかにします。

そのために、情勢分析では、独占資本の資本蓄積行動、国際競争力強化のための合理化強行、対組合工作の分析にとどまらず、独占資本が利用する国家機構のありかた、労働者政党・資本家政党、労働組合全国センターなど政治勢力の配置、議会制民主主義の政治構造、そして労働者階級内部での、灰原さんのいわれたXYZ意識層の分布変化、階級的力関係の分析がなされなければなりません。

ところが、社会通信以外の雑誌では、情勢分析といながら、後者の分析がなく、事実上、経済の現状分析にとどまっている論文、そして結論にとんで、反独占、反アメリカ帝国主義（戦前では天皇制絶対主義打倒）の一般的スローガンを打ち出す論文が散見されます。

社会通信が、このような迷い道に入ることなく、資本主義社会における独占資本の蓄積行動、労働者の自己意識、階級的力関係、政治構造の変化の分析をおして、労働者運動の当面の目標、方向の確認に役立つ情勢分析を提供することを期待します。

（塚本 健・東京都杉並区）

日教組「四〇〇日抗争」

「社会通信」が一十号を迎えたというのは、闘う戦線のミニコミ誌としては稀有のことでしょう。一号あたり一四頁平均で一万四〇〇〇頁を出したことになります。本

当にご苦勞様です。でも、まだまだやめるわけにはいきませんね。私たちをとりまく情勢との関連で言えば「やめる」のは「あきらめる」ことと同義ですから。

振り返ってみると、八九年の連合発足の前後、日教組の動向をめぐって組織を挙げて論議し、「四〇〇日抗争」などのさなかに社会通信が発信と交流の場として大きな役割を果たした。今も、折にふれ教育「改革」の動向については目配りを欠かしません。国鉄闘争の当初から「我が方」の論陣を張る主要な舞台として社会通信があったこと。志を共にする仲間の交流の場としては今も健在です。

総評・社会党崩壊から新社会党結党、そしてこんにちに至る攻防の中で、常に本質的な提起をしてきました。中南米の反米・反グローバリズムの動きや朝鮮問題も適宜取り上げ、現象の背後にある本質をついてきました。

一千号を超えたのだから二千号を目指せなどというおべんちゃらは言いません。

私たちが直面している情勢に照らして言えば、「敵よりも一日長く」ということでしょう。頑張りましょう。一千号突破記念の祝宴の音頭とりを誰かやってください。五〇〇号突破のときに、日本教育会館でやったのを覚えています。あの時、事務局役をやった笠井君は「千の風」になりましたから。（横堀 正一・千葉県習志野市）

勝利の源は “ 団結 ”

『社会通信』一千号達成に心より敬意を表します。

労働運動の羅針盤として、全国の仲間の交流の場として、これまでもそしてこれからも貴誌の役割は益々求められています。

貴誌を通じての国鉄闘争への叱咤激励に心から感謝します。

闘いは二〇年を経過しました。しっかりと前を見据えることと同時に過去を振り返ることを忘れずに闘い勝利し、家族・仲間とともに新たな戦線に向かいたいと思っています。

今日はメーデー。資本・権力を動かすには大きなエネルギーが必要です。そのエネルギーの源は働く者の団結です。

貴誌がその糧になることを願っています。

（二〇〇七年メーデー、工藤 伸・旭川市）

全力で「9条ネット」

私の記憶からすると、三〇年の年月はたぶん「進路」時代からの通号かと思えます。社会党を階級政党として強化しようとする社会情勢の速報を的確に掲載すると同時に、私にとつては職場活動の指針になる理論提起をいただき、組合役員として大いに役立たせてもらいました。

滝野さんのエネルギーを感じつつ、私も9条ネットとともに町議会議員活動に全力で取り組みます。（群馬県明和町、町議会議員・岡安 敏雄）

原 発 ト ラ ブ ル

一千号心からおめでとうございます。滝野さんご夫婦の三〇年余のたゆまぬ発行努力に敬意を表します。思えば本誌の前身である「進路」から愛読していただきますので「社会通信」誌と併せると三〇数年のお付き合いになります。

社会通信のいいところは旬刊なので政治、経済、労働運動等の課題や問題点がいち早く読者の元に届くことです。執筆陣も現場第一主義の方が多く、長論文ではなく、職場の実態等を踏まえた編集をしているので私みたいな労働現場の人間には大変参考になります。

私の職場は東京電力です。原子力発電所のデータ改ざんやトラブル隠しの隠蔽体質が大きな問題になっている。安全第一と口先では言っているが、東京電力では原子力設備利用率が1%の変動で年間約八〇億円収支に影響する。利益・業績最優先の電力会社ですから原発は少しぐらいのトラブルがあっても止めることはできないのである。故に起こるべきして起こった不祥事といえる。

成果主義賃金制度が導入されてきてからはなおさら止めづらくなっている。事故やトラブルは減点になる。業績評価でよい点を取るには都合の悪い点は隠したくなるのが競争社会では常識だ。成果主義賃金がほとんどの大企業に導入されて久しいが成果主義賃金制度で社員のモチベーションが上がって大成功といった声はどこからも聞えてこない。

ソニーや富士通等からは会社幹部からさえ、成果主義が社員のやる気を奪っている元凶と指摘している。成果主義賃金制度は日本の社会には絶対なじまない制度である。東電労組の本部大会でも成果主義賃金制度に対する不満、怒りが組合員から噴出している。しかし、会社も労組も評価方法の見直し等の小手先だけの対応で不満を抑えようとしているが解決にはならず、矛盾は深まるばかりである。

賃金は「労働力の再生産費」であると、電力労働運動の先輩たちが編み出した「マーケットバスケット方式」の正しさを、成果主義賃金制度に対比して自信を持って組合員に提起していく時期になってきているのではと思う昨今である。

共にこれからも労働運動・社会主義運動の前進のために頑張っていきましょう。

(東電・一読者)

や っ ぱ 保 守 王 国 ？

すごい、一千号誠におめでとうございます！

三〇年前の私は長男の子育てと仕事に追われ、「わや」(山口弁)な毎日を送っていました。双子を出産し、間もなく国鉄分割民営化の嵐に巻き込まれ、千葉県柏市で多くの仲間と出会い、闘い続けて悔いのない三〇年だったと思っています。「社会通信」もそうであったと思います。これからもそうであるように共に頑張りたいですね。

今、夫のふるさと山口県光市に移住して二年半が過ぎようとしています。一千号に

寄せて、「美しい国日本」が口癖の安倍首相のお膝元である山口県での、地方選を終えての実状などについて少し書いてみます。

○七年の統一地方選挙が「二大保守政党化さらに進行（社会通信No.999巻頭言）」という結果で終わりました。ここ山口県は「平成の大合併」を先頭きって推し進め、ほとんどの選挙区エリアが拡大し、当然に定数も削減された中で行われました。市町長選では、合併の効果に疑問を抱く候補が当選する結果が多く見られましたが、重要な節目となる選挙であるにもかかわらず投票率は低下しています。

県議選では、自民党が過半数を維持、民主・共産が増、公明・社民が改選前と同という結果でした。合併後初の市議選となった宇部市では、新社会党が社民党支援ということで新人候補を応援、好結果でした。ここでは新旧交代が進んだ選挙となり、女性市議率も一二・五％。しかし、県全体を見ると女性・若手候補者が少なく、現議員数も少ないのです。私を感じることは市町議員に高齢の男性がとて多い、逆に若い女性議員は見当たらないということです。当地の選挙は昔からの「しがらみ」から抜け出せないようですし、わりと議論好きな県民性も感じられる反面、根本では保守性の強さがあるんです、やっぱ保守王国？

さて、こうした実状にあるなかでいよいよ参院選です。国民が「ぼーっと」してる間に「国民投票法案」が強行採決されて、憲法があぶなくなり、そして富める者は益々富み、貧する者は益々貧する社会が現実となっています。私は、山口でやれることはすべてやり、口と足を使ってやれることは万難を排して、新社会党山口県本部の方々と共にこの参院選に取り組みたいと考えています。

都市（東京）と地方の格差ほんとに拡がってますね、「社会通信No.999」滝野氏の巻頭言はズバリ、「共産党宣言」を本棚の隅から探し出しましょう。

二〇〇〇号まで元気で頑張りましょう！（玉木 節子・山口県光市）

「奔流」の火、燃やし続ける

発刊一千号にお祝いを申し上げると同時に、発行人たる忠さんと奥さんのご苦勞に敬意を表させていただきます。

創刊の年となった一九七七年は、労働者・勤労国民の期待を担って成長してきた社会党が、「国会議員に大会代議員権を無条件附与する」規約改悪で自ら党内民主主義を破壊して党勢後退を方向付けた、大変な年でした。

二月の党大会（四〇回）で左右が激突、成田・石橋執行体制が継続されることになったものの、敗れた江田前副委員長が三月に離党、支配者階級は、党内左派の伸長による社会党の社会主義政党への成長を危惧、反社会主義宣伝と社会主義協会攻撃を開始、総評社会党員協議会（榎枝議長）を通じて「規制」に乗り出し、一定の成果をあげた年でした。

国労で言えば、反マル生闘争とスト権ストを経て頭を持ち上げた「過信」と権力規定を間違えた右派勢力（社会党员協右派と共産革同）が提起した「民主的規制」路線に、一定の決着がついた新潟大会の年である。

新潟から帰郷したあと、日時は定かではないが、「先生に、『独立してやれ』といわれた」と話しにきた滝野さんの言葉が耳にある。

以来、三十年である。時代は様変わりした。

行財政改革を大義名分にした、頂上作戦としての国労つぶしを狙った国鉄改革攻撃が強引に進められ、戦後の労働者運動を主導してきた総評が解散して「連合」に変質（同盟が吸収）、非武装中立路線を堅持して総評と共に護憲闘争を牽引してきた社会党が村山連立内閣発足と共に変質（自衛隊容認）して社民党に生まれ変わったことである。

政府自民党と資本は、真実を隠して国鉄財政の「赤字」を喧伝して国民を欺き、「毒（革マル派Ⅱ動労）をもって毒（社会・共産勢力Ⅱ国労）を制す（中曽根）」手法で選別・差別の限りを尽くし、国鉄を機能別・線区別地域別に分割して民営化して解体した。

以来、政府と資本は国鉄改革の破綻を隠し続けるために利権分配で「成功神話」をつくりだし、これを手本としたリストラ攻撃を全国津々浦々で展開させたとおりである。

国労は、一〇四七名の解雇撤回・JR復帰とJR差別根絶を車の両輪の闘いと位置づけ、国鉄分割民営化政策の悪政ぶりと破綻実態を告発し続けてきたが、「四党合意」を契機にして二〇〇五年の尼崎事故で様変わりした。

国鉄の分割民営化が世紀の悪政であったことに疑いはないが、これを正す政治勢力が国会に議席を持っていないことから、一〇四七名問題すら未解決のままである。

「通信」の独立発刊を決意した向坂先生や灰原茂雄さんは、「歌を忘れたカナリヤ」状態と嘆かれているものと思われる事態である。

私を含めた国労の仲間たちは文字通り、『通信』に勇氣づけられ激され続けてきた。

しかし、今日の事態は、私たち自身の拠点づくりが十分ではなかった証でもある。

一千号発刊を機に、先生たちが期待した「奔流」の火を燃やし続けられることを期待すると同時に、私にとっては、諸先輩や同志の皆さんと共に、不十分だった「拠点づくり」の契機とすることが暗示されたように思われた次第である。

期待し、決意も新たにしたい。
(早田 昌二郎・東京都足立区)

統一地方選で勝った

旬刊誌一千号と一口では云えても、その発行までの影の努力は大変な事と推察され、心から敬意を表します。(いささか形式的ですが)

私は、新社会党山形県本部特執(事務局員)として、自称専従と位置づけ毎朝九時

出局している事もあり、いつからか月刊「科学的社会主義」十数部、「まなぶ」十数部と共に「社会通信」三十数部を（配布八部・集金全部）担当、一昨年から六ヶ月前納制が軌道に乗った。従って、八部の配本を除けば年二回集金するだけの微々たる労力だけでしかなくとも、「社会通信」の誰もが評価する任務の一助となっている事を自負します。「少しでもヤツテいるぞー」と。

自称専従が体力的に続く限り配本集金をやり抜きます。

四月統一地方選、自分の選挙を卒業してから四回目の選挙、米沢で一人増の三名に、中でも新人のトップ当選が驚きと喜び、それにも増して、隣の川西町議選での斉藤智志君の二位当選は、痛快の極みです。

当初無謀とも見える立候補、その意味と決意は党内ばかりか労働者層もゆさぶり、党県本部が、とりわけ米沢は三陣営とも、自己の選挙戦を抱えつつも多くの労力、支持者の紹介と、全力を挙げたと云っても云い過ぎではない。

党活動の強化、地域ユニオン・労働運動に、そして改憲阻止の闘いと、元気の出る成果を挙げた事を報告とします。
（千葉 常義・山形県米沢市）

子どもも「9条ネット」参加

一九九七年一月一日、「社会通信」二〇周年記念集會に参加し、娘（長女）が二〇歳となり看護の道をめざしている。労働者の心を耕し続けようと記載させていたできました。あれから一〇年、娘は病を乗り越えて男児の親となり、今、看護の道をつづけ、新人研修担当で励んでいます。人の死を見つめながら、医療の仕事をあきらめずに来た娘の成長に感謝しています。

私たちと同じく共働きで子を保育所に預けての仕事は、私たちの時代とは違い大変です。経営のみが優先する時代に、医療の現場から、なぜもつと安心できる医療が出来るのかと上司や仲間との話し合いを続けるとき、購読している機関紙「新社会」が参考になると言います。

期せずして息子も男児を抱えながら、医療現場で働いています。一〇年前から大学は出たけれど、思うような就職がない時代に、悩みながら「手に職をつける」事を選択したことは、生きてゆくうえで役に立っているようです。

私たちの結婚当時は、六輪番勤務の妻とともに二人の子を育てることに必死でした。それも、保育ママさんや保育園の延長保育、学童保育と多くの支えが地域社会にあっただからです。子どもたちにも寂しい思いをさせてきたかもしれませんが、一緒のときは精一杯の想いで接してきました。子どもたちが親となつてからは、六輪番勤務の子育てが信じられないようです。

私は、この四月、思ってもいない還暦を迎え、年金申請を行う年代になってしまいました。家族のみんなが祝福にあつまってくれ、感無量でした。家族の広がる絆を大切にしてきた思い出が、走馬灯のように浮かびました。歴史のさまざまな出来事の中で個人や家族の営みが続きながら、今も人間としての誇りを失わずにきたのは、支え

あう家族と仲間がいたからです。

プレゼント希望の「圧力釜」をもらい、今度は何の料理を作ろうかとワクワクしています。健康は食を考えることから、子が三歳の時に教えた言葉は、お菓子に書いてある「合着」でした。合着色料の添加しているものを食べさせたくなかったからです。こだわる割には、酒だけはいつも「もったいない」飲みすぎと言われ続けて、三〇年です。

この日、娘夫妻と息子夫妻には、迫り来る戦争の出来る国づくり、「憲法改悪」の世界に子どもたちを渡してはならないと、「9条ネット」の賛同人になってもらいました。平和な暮らしがなければ、子ども達に明るい未来はありません。

『社会通信』三〇周年は、私にとっても大きな節目です。これからの生き方、あと一歩・二歩の踏ん張りを健康・学習・仲間を大切に共に歩みたいと考えています。

(NTT労働者・町田 俊治)

思うがままに―若者との対話

思うがままにその1 滝野 忠さん、滝野嘉津子さん、とりあえず「社会通信」一千号お疲れさまでした。一度だけ編集をされているお二人の仕事場へ伺い、編集を上げる過程でのお二人の会話を直接聞かせていただきました。「傲慢な滝野忠、耐えつつ冷静な嘉津子夫人」これが感想です。三〇年以上の永きにわたり発行し続けてこられた陰の功労者は、やはり嘉津子夫人のような気がします。

思うがままにその2 「社会通信」の置かれている位置で、その組合の階級性がよくわかる。国労全盛の頃、ちようと、国鉄分割民営化時期までの「社会通信」の位置は分会事務所、支部事務所とも、「我がもの顔」でみんなが集まるテーブルの中央に置かれていた。右傾化の波は「社会通信」をテーブルの端へと追いやり、四党合意以降は、テーブルの上からも姿を消すこととなった。まさに、労働運動が右傾化の中にあっても「社会通信」はひるむことなく階級性を維持してきた証ですね。

思うがままにその3 退職と同時に「社会通信」をやめる方も多いと思う。今年また一人「社会通信」読者が退職した。来年また一人読者が退職する。この二人は違っている。「社会通信」だけは取り続けたいとなっている。「なぜ」の問いに「現場の生の事が書かれている。自分の問題とかみ合う」と言うことでした。引き続き発行される「社会通信」、どの様な内容に期待するかの一例です。

思うがままにその4 「社会通信」の紙面に何回か顔を出させていただきました。未だに実名で出せない自分の弱さを感じています。職場で起きている出来事がなかなか社会的に出せない(労働組合が会社よりになると組合機関誌が真実を伝えなくなる)今の状況にあって、思いを活字にしてくれる「社会通信」の存在は非常に大きな心の支えとなっています。

追伸 ひしひしと「戦争の出来る日本」の足音を感じ始めています。憲法の改悪阻

止に向けて今やっていることは、高校一年と三年の息子との会話です。高一息子「この頃のニュースは戦争が近くなったと思うね」、高三息子「戦争なんかやりたくないよ、わかっているよ憲法改悪反対だろう」、身近なところからの一歩ですね。

機会あつて大学生の方々と飲むことがあるのですが純粹ですね。「何か本読んでるかい」「読んでません。何を読んでいいかわからないです。」数冊を紹介。その中から「沈まぬ太陽」を読み始めたとのこと、そこで私の「人活センター」の経験を話すと、「本と同じですね。本にあるんだ」と驚いていました。

先日は、イラク戦争の本質、アメリカの批判、従軍慰安婦問題、日本軍による朝鮮国民への迫害、「拉致」の宣伝煽動の本質、憲法改悪等々、長々と話しました。「このような話疲れるか」「すごい勉強になります。そんな考え方を話してくれる人はいないですから」とのことでした。「また聞かせてください」とのこと。日本の将来を担う若者達に本当のことを伝えるにはどうしたらいいのですかね。「社会通信」がその灯台であつてほしい。

(蓑輪 泰臣・東京都八王子市)

理 論 の 力

団塊のしんがりである私の世代は、兄妹に比べて群れる傾向があるのか、同窓・同級会活動に熱心である。私の身边でも同窓・同級会の案内が毎年のようにくるようになった。この活動は人生ひと区切りを目前にして、古巣に帰り、互いを鏡に写し合い、自分を確かめ、再出発の糧にしよという一種の自分探しであろう。

昨年一月には故郷(長野県木曾郡南木曾町)の小中学校同級会の案内があつたが、地元の市議選にぶつかり欠席した。送られてきた写真を見ると一三〇人の同級生のうち、五六人が出席する盛況だった。そのおり担任のN先生からプレゼントがあり、駅前で土産物屋を営む友人を介して、母から届けられた。それは便箋一枚の手紙で、中学二年の夏休みの宿題として私の生活ぶりを先生に報告したものであつた。時間を四二年前に戻すタイムカプセルである。狐に化かされたとはその時の心境をいうのだろう。自署もある筆跡はまるで別人のもの、一読目は虚ろ、再読して我に返り、三読目で先生の恩に頭を垂れた。

*

戦後六・三制が発足して、国民学校(初等科、高等科)が読書(よみかき)小学校と読書中学校に改編された。明治の学制発布に伴う学校名は「三留野学校」だったが、明治七年に与川(よがわ)、三留野(みどの)、柿其(かきぞれ)の三村が合併し、三村の頭文字をとって「読書村」が誕生し、校名もこれになつた。それにしてもこれ以上はないという校名である。当時の訓導(校長)が「これからの世は学問がなければならぬ。読書こそ文化を開く源である」と開化の気風を校名に込めたと伝えられている。

この備忘は開校一〇〇周年記念に刊行された『読書小学校沿革誌』(一九七三年)によつてはいるが、そこには歴代の教職員や卒業生の名簿も載つており、貴重な史料だ。

私の祖父は明治三十三年三月卒と記録されている。

*

N先生からのプレゼント（私の手紙）には「ぼくの座右の銘」として「一に勉強、二に勉強、三に勉強、四にスポーツ、五に遊び」と殊勝なことが書かれている。そのくせ、「このまま夏休みが続いてもらいたい」ともあり、苦笑する先生の姿が目につかぶようだ。

私はその後、国労本部書記局に入って反合研運動に導かれ、一九七六年に創刊された国鉄反合研の機関誌『理論と実践』に一文を寄せることになった。それは今となっては読むに耐ええない生硬な文章だが、筋だけは間違っていないと懐かしく読み返した。冒頭に向坂先生の論文にあった「勉強、勉強、また勉強、勉強のみが奇跡を生む」という武者小路実篤の言葉を引き、これが反合研運動の作風でなければならぬと、またあきれるほど生意気であった。中学生と二五歳の社会人とは勉強の中身も違うが、そこになにほどこか一貫したものが感じられて我ながら微笑ましい。

その『理論と実践』誌で滝野忠さんが反合研運動を「私の先生」と呼ぶかたわら、「理論の力を馬鹿にしてはならない」と力説している。理論を馬鹿にした、勉強を忘れた労働運動が闊歩してきたこの三〇年間に、『社会通信』は「理論の力」であり続けた。滝野さんの先生は『社会通信』を生み、育て、そして残したと言ったら失礼だろうか。（樋口 俊士・千葉県松戸市）

運動と元気の糧

労働運動が混沌としており、新たな活動家集団も掘り起こせないという現状であります。多くの仲間・同志が悩み苦労しながら細々と運動の灯を絶やさぬ努力をしております。そんな時に社会通信は元気を与えてくれる情報誌であります。私にとって落ち込んでいる時社会通信を読むことがもう一度頑張ってみるかという気にさせてくれるメンタルヘルスのありがたいバイブルでもあります。

また、情勢の認識と運動課題のために不可欠な存在であります。労働運動にかかわり三〇年以上となりましたが、社会通信（前身を含めて）が私にとって教材そのものであり、大衆学習会・委員長議長あいさつなど引用・利用したか教え切れない限りでありただただ感謝・感謝あるのみです。

私は社会通信が届くと、まず読者からのたよりを読みます。全国各地の仲間が様々な運動をしていることから元気をまずもらい、巻頭言や論文・報告からも元気をもらっております。するどい問題点の掘り出しが社会通信の真髄であり、私たちがその気にさせます。「集まり話してみよう」すべてがここからはじまります。滝野さんの仲間への信頼がこの言葉に現われていると思います。

滝野さんには約束違反ばかりしております。それは社会通信へ記事を送ることを多くさぼっていることです。地域で取り組んでいる「統一戦線の憲法9条を護る運動」「地域におけるユニオン運動と共闘運動」「国鉄闘争の取り組み」などを記事にする

約束しても記事の賞味期限が過ぎ見送ることばかりです。それ以上に社会通信の読者に届けなければならぬ地域労働運動の課題の責任を果たしていないことが重大でしょう。

全国各地では多くの地区労が生き残り、脱退による組織減と財政面で苦勞しながらも、「未組織問題とユニオン運動」「護憲・平和運動」「政治闘争」などを展開しております。ここ七、八年で活発化してきている「全国地区労交流会」関係と地域労働運動の記事を定期的に掲載する予定でしたが実行が不十分です。

「全国地区労交流会」の運営委員会や活動に関わっている数名で分担して記事を送ることとしていましたが、別な課題ではこのメンバーの報告が時々社会通信に掲載されていきますが肝心の記事がありません。労働運動の再生の一翼を担うのが地域労働運動であり、その動きと課題を全国の仲間・同志に共通化させることは係わっているものの責務です。もう一度、社会通信に定期的に記事を送る相談をします。

社会通信が今後とも私たちの灯台として道しるべをお願いしたいものです。

(中村 平治・山形県米沢市)

介護保険制度の渦の真っ只中

凄いいことだと、尊敬を通り越して言葉がありません。どんなにか苦難の日々であられたことかと、想像も出来ません。私は九一年県議選落選後一年目の四月二日、幸運にも三〇年前に勤務していた某商社系列会社に勤務でき、九段下まで通勤を始めました。満員電車のつり革に掴まって『社会通信』を読んだ時、本が読める時間が持てたと感動しました。現職中は社会通信の封を切ることも出来ない日々が続き、自分の為に活字をむさぼる感動を、小さくたたんだ社会通信の行間から頂きました。以来、雨の日も風の日も、政治の変動を得がたい視点からの解説に、とても勇気付けられました。欲しかった情報が飛び込んでくる頁は新鮮で、喜びを与えてくれました。

四十年前ママさん議員候補で社会党に入党した私は、社会主義も労働者の自覚もない不純な動機の入党でした。左右の先輩の攻防があり驚きました。確か右派の先輩の推薦で旧ソ連・カリニン州に交流に行きました。子どもを夫に預けての夜のホテルは悲しく、右派の先輩から頂いた旅行ブックを広げ、その頁からロシア革命・血のメーデー・ボルシェビキ・メンシェビキ・レーニン、十月十七日：を知りました。恥ずかしさで眠れませんでした。千葉の地元で勧められ協会に入り、先輩の勧めで貴誌を知りました。党内の争いを客観的に見るヒントを得、学ぶ楽しさを享受しました。

其処からも離れ現在は、介護サービスの第三者評価NPOを立ち上げ、介護保険制度の渦の真っ只中にいます。財源の圧縮を迫られた厚労省の制度いじりで、高齢者や施設が窮乏化していく現実があります。また東京都の高齢者福祉政策の厚さを千葉県と比較し複雑です。都政に対する評価は党内と違います。一千号の前の九九九号に知事選関連記事があり、ナウい編集が嬉しい。けれど滝野さん、ご夫妻の老後の生活はどうなってるの。仲間の心配ばかりしてるけど…。

(柳田 祥子・千葉県柏市)

「日本の青空」上映運動

「社会通信」が発刊された頃からの読者ですが、隅から隅まで読んだという記憶はあまりありません。目次と、興味のある記事だけを読んできたような気がします。

国鉄分割・民営化反対のたたかいの頃には、滝野さんにもいろいろお世話になり、神戸に牛久保弁護士を招いた大講演会が成功したことを印象深く記憶しています。

さて、私は現在、神戸を離れ、職住ともに兵庫県丹波地方で毎日を送っています。丹波に転勤してすぐに「平和憲法を守る丹波地区集会」の取り組みがあり、それ以来、丹波の仲間とともに、平和憲法を守り広げる活動をコツコツと続けています。

この間の活動の中で、「平和憲法を守る丹波地区連絡会（略称・憲法たんば）」と「ひようご丹波・憲法を生かす会」が生まれました。

いま取り組んでいるのは、「日本の青空」という映画の上映運動です。この映画は、憲法施行六〇周年を記念して完成したもので、全国各地で上映会が始まっています。この映画を兵庫県下ではトップを切って六月に「たんば上映会」を成功させようと頑張っています。趣旨に賛同する団体・個人に広く呼びかけ、四月に「たんば上映実行委員会」を結成しました。実行委員会結成の集いに二十七人の人たちが集まり、上映運動が始まりました。

安倍政権の暴走ぶりに反発したのか、最近の世論調査を見ても、改憲に反対する人たちが増えてきているような気がします。あきらめることなく、今後も、憲法改悪を許さない活動を続けたいと思います。貴誌のますますのご発展をお祈り申し上げます。

（兵庫・憲法たんば事務局・川崎 雄二）

「日本の青空」たんば上映会

●二〇〇七年六月二〇日（水）①午後二時、②午後七時

四季の森生涯学習センター・多目的ホール（篠山市網掛）

●二〇〇七年六月二二日（金）①午前一〇時、②午後二時、③午後七時

ポップアップホール（丹波市氷上町・ゆめタウン内）

●主催／「日本の青空」たんば上映実行委員会

●後援／篠山市教育委員会、丹波市教育委員会、神戸新聞社、丹波新聞社

苛 斂 誅 求

社会通信一千号達成おめでとうございます。想えば京成労組最大の闘い、一五六時間のストを打ち抜いた七七闘争の少し前に、社会通信は発刊されたのですね。あの当時の情勢と比べると社会の右傾化は、安倍の総理就任をてこに頂点に達しようとしています。

また資本の太鼓持ちの役割を担った評論家が、テレビ、ラジオ、インターネット、新聞等々場で、改憲の必要性や競争主義社会の正当性を声高に叫んでいます。こうした流れに抵抗する社会通信の役割は、益々高まっている。私達の職場では社会通信を

日刊紙の資料として、学習会の文献などに活用しています。

滝野さん自身にも、春闘労働学校や職場の学習会などに講師として参加していただき、その時々的情勢や運動の課題についてお話をしています。滝野さんのお話で強く記憶に残っているのは、今の時代の有様を江戸時代に幕府が行った施策苛斂誅求と同様である言われたことで、現実はその通り過酷なまでの低賃金化、長時間労働、社会保障も含めた増税の嵐です。今後も私達の良き道標として号を重ねてくださう。

(京成乗務反合研・鈴木 雄滋)

問われる運動と組織する側の資質

輝ける一千号達成に、心より敬意を表します。

私も定例議会毎に市議会報告を四苦八苦しながら出しています。今、一期目の三年が終わろうとしています。今回の議会報告で十二号になりました。一千号を達成しようとすれば二五〇年議員をしなければなりません。さて、冗談はそのくらいにしておきます。

私は市議会議員になるまで、教職員組合の書記を三二年経験しました。とりわけ若い頃には青年部の仲間と定例の学習会を組織してきました。当時の仲間とは今でも、いろいろな形で支え合っています。共に学んだ仲間は生涯を通しての仲間だと思っています。そうした私自身の過去を振り返ってみるとき、何と現在の組合組織の学習の不足、いやそれ以上に、学習すらしない、出来ない組織の実態を嘆かざるを得ません。誰が悪いとかそういう問題ではなく、運動を作る側、組織する側の資質が問われていると思います。いつの間にか執行部・執行委員は組合行事を消化するための組織にかなり得ていない現実もあるように思えてなりません。

確かに執行部に入った段階で、社会状況の学習や、現実の課題についての学習は積み重ねてはいます。しかし、一人ひとりの人としての闘う基盤としての、社会科学的な学習が充分に出来ていない実態がありはしないでしょうか。

私自身あまり偉そうなことは言えません。今現在、学習会を組織しているわけでもないし、仲間とそうした論議を積み重ねることもあまりしていませんので。でも、闘いが厳しくなるときこそ、社会科学的学习が必要になると思います。

滝野さんにも何度か、福山の地へ、組織の学習会へ講師として来ていただいたこともあります。また、私が時々個人的に出している私的な不定期発行の学習資料「晨星」(しんせい)にも、「社会通信」の論文・資料などを引用し、仲間の学習資料として利用させていただいています。

教育労働を巡る状況や、格差が益々大きくなる中での市民生活も決して良い方向へは進んではいません。だからこそ、組合員の声から組織される原則的な闘いや、市民に寄り添った政治がより一層必要だと思っています。

そうした時の闘いの方向を示唆してくれる羅針盤として、そして学習資料として「社会通信」の役割は大きなものと思っています。

滝野さんと仲間によって作られてき、そしてこれからも作り続けられるであろう「社会通信」を、私たちの闘いの武器として活用していかなければと思っています。

これからも「社会通信」と、そして全国の仲間と共に進んでいきたいと思っています。
(福山市議会議員・西本 章)

運動の中で多くの先輩と邂逅

社会通信一千号、まことにおめでとうございます。三〇年と一口に言っても、長いですね。一九七七年は私が学生を終わって、田舎に帰った年でした。

今で言えば、ニート生活、無職時代の苦痛を味わっていたときです。七九年に学校に採用。労組青年部活動、共闘運動・・・この運動を通じて三池の先輩、塚元敦義さん、灰原茂雄さん、弁護士福田徹先生、諫早湾の山下弘文さん、沖縄大学の宇井純さん、大分県中津在住の作家松下竜一センセ、弁護士の矢田部理さん、釧路市長の山口哲郎さん、無名の六津五郎損師、そして滝野さんと、一線の闘志の皆様方に邂逅の機会を与えていただきました。感謝しております。

願わくは、二千号まで発刊をお願いします。そのとき、私は八五歳です(笑い)。

(河野 康臣・大分県宇佐市)

農業問題で新たな「運動論」構築中

七七年の「協会規制」によって、「旬刊進路」が「社会通信」へと変わった。協会の機関誌から、「個人」発行の雑誌へと。その後協会の方向が変わっていった。九年にはご存知の通り「分裂」。

私は滝野さんとはそんなに親しく付き合ったこともないし、お話したこともない。しかしながら、飄々とした風貌と現場の労働者の立場での「発言」は私の注目を引かずにはおかなかった。

大体、右傾化するということは、ほとんどが労働現場の視点から乖離してくる。現場の声が反映されなくなってくる。かつて「社青同」で徹夜で革命論を闘わせた仲間もほとんどが「偉く」なっており、「昔話」として当時のことを語る。これも生き方なのだろうが、そういうふうな人間をつくってきた私達の運動があったということも事実である。

先日、一緒に国鉄闘争をやっている他党派の仲間が酔払って事故を起こして警察沙汰になった。忘年会で飲み過ぎて訳がわからなくなっている事故だという。その忘年会の席で「いくら頑張っても誰も立ち上がらない・・・」と自暴自棄になってのことだと、自ら言っていた。その気持ちは十分すぎるくらいわかる。

私達、労農派の党派性は「大衆運動への献身性である」と仲間再三、再四言ってきたし、今後とも言っていくつもりである。口では「大衆運動への献身」というのは言うがこれがまた難しい。特に今の情勢では難しい。「学ぶことは闘いである」という

向坂先生の色紙を今も部屋に飾ってあるが、五〇を越してやっとわかりかけてきた。資本主義の理解と運動の弁証法を理解できないものは、大衆運動へ献身は長続きしない。すぐに自暴自棄になってしまう。そうならざるを得ない、といったほうが正確か。現在、秋田で農協労働者として労働運動は当然としても、農業問題にも力を入れなければと思っている。日本の農業は新自由主義化で切り捨てられる部門としてあり、もつとも矛盾が先鋭化しつつある産業である。資本主義の構造変化で農民運動はほぼ「壊滅状態」。仲間と共に、新たな「運動論」を構築中である。農業県秋田では「農民運動」にまだ、「社民系」「共産系」というくだらない感覚と組織実態がある。内部で言い争っているのを一番喜ぶのは多国籍資本である。護憲闘争もしかり。私の力がどれだけ通用するかはわからないが、今まで学習してきた運動の弁証法的発展を信じて、また一歩踏み出したい。そうすることが「社会通信」への最大の連帯であると思う。「社会通信」一千号本当におめでとうございます。今後よろしく。

(秋田農協労働副委員長・畠山 勝巳)

反 処 分 闘 争 の 勝 利

滝野さんご夫妻や「社会通信」と出会ったのは、一九九二年の初夏だったと思います。九二年参議院東京選挙区に反PKO法を掲げた内田雅敏弁護士が立候補して善戦。この時内田さんを担ぎ出したのが全労協を中心としたとても幅広い統一戦線で、労働情報・一〇月会議も一翼を担うなか選対事務局にボクも張り付き、毎日のように滝野さんと顔を合わすことができました。

あの時は、反戦護憲の政治勢力を生みだし砦を築かねばと皆が一心不乱でした。選対事務局は、気持ちを一つに寄せ合った、気持ちの良い人たちの集まりでした。

*

*

*

あれから一五年近く、今年二月一三日に最高裁第三小法廷は裁判官五人全員一致で郵政公社の上訴を却下し、郵政4・28反処分闘争は大勝利を得ることができました。国家による不当労働行為首切りを、争議二八年目にして打ち負かしました。

「指導部に軽く現場に重い首切り処分は、『重大且つ明白な』(処分の)裁量権の逸脱」との〇四年六月東京高裁判決が確定、原告七人全員が原職復帰を果たしました。全国の郵便局で一九七八年年末から二ヶ月間の「差別・不当労働行為は許さない」とした反マル生越年闘争、続いて五八人の免職等八一八三人の大量4・28報復処分、そして全通(現JPU)本部の変節と九一年免職者の組合からの追放……。

国と大労組が一緒になってのイジメをはねのけたなんて、敵も味方も驚いているでしょうが、免職者のボクら自身だってすごく驚いているのです。

今回の勝利は、自立自闘の歩みを支えてくれた多様な人々がいたからこそです。「社会通信」でも幾たびも報道・激励をしてもらいました。読者の皆さんからも、多くの支援の手を差し伸べてもらいました。本当にありがとうございます。

4・28処分は、「全通く国労く総評ツブシ」など労戦再編の目論みを持った政府自

民党による政治処分でもあり、労戦再編に抗しての郵政ユニオンなど現場の仲間、全労協など地域の仲間、東京総行動や国鉄闘争等々の仲間たち皆の勝利でもあります。さらに現在の新自由主義・格差社会に異議を唱える人皆の力で勝ち得た勝利だと思います。

この勝利を郵政民営化・儲け主義反対などへとつなげていければと思います。人に冷たい労働組合ではなく、人に温かい社会的労働運動等の拡大へと、願っています。

今も尚、郵政公社と郵政共済組合との「争議解決交渉」真っ最中です。謝罪もせず、バックペイも計算中で復帰後の賃金すら「仮」のまま、ボクは連続年休でこのふざけた公社追及に全力投入です。五月連休明けから一週間、北海道国労闘争団へ「お礼と報告」巡りもします。さらに、原告以外の4・28免職者にも提訴時効のない「処分の無効確認提訴」職場復帰」の道が最高裁決定で開かれました。「重大且つ明白な」違法行為を二八年間も続けてきた郵政当局！今しばらく、ご支援連帯をお願いします。

「社会通信」の千号達成、大変なご努力、おめでとうございます。

(名古屋 哲一・郵政4・28ネット、元免職者)

今こそ広範な戦線の構築が必要

滝野さんとはじめてお会いしたのはいつ頃だったのだろう。確か、労戦統一前夜七年か八年あたりか。高知県職労の学習会講師でお招きしたときであったと思う。何を話しておられたか、申し訳ないがほとんど覚えていない。ただ、当時から、「労戦統一とは闘う労働運動切り捨てと社会党解党である。これを許さない広範な戦線が必要だ」と述べられていたことだけは、記憶に残っている。

当時、単組の方針としても、国鉄分割民営化反対、反連合結成・真の労戦統一ということを求めつつ、私自身滝野さんが言われていたことがどれだけ心に落ちていたか。

時は流れて、今まさに公務員バッシングと社会保障の切り捨てが徹底して繰り広げられている。高知県は、橋本知事のもと全国に先駆けて、いわば自治体合理化の実験場としてありとあらゆる県職労バッシングと医療・福祉の切り捨てが行われてきた。

自治体改革を妨げる「敵」に県職労をまつり上げ、成果の上がない原因は「職員意識改革が進まないせい」としてきた。職場では、査定昇給や「勤務成績不良職員指定」などによる「恐怖統治」がしかれ、非常勤職員には首切り、一方では、県立病院への民間手法の持ち込み(独立採算性、一部事務組合化とPFIによる一部民間経営化)、法で必置規制のあるもの以外すべての社会福祉施設の民営化を進めてきている。

高知県職労なりに精一杯の闘いは仕組んできたが、ストを行えば全員処分という恫喝、「管理運営事項」の強調による団交拒否、人員削減と組合費チェックオフ廃止による組織人員・力量低下もあいまって思うに任せない闘いが続いている。

そんな中、身体障害者リハビリセンターという社会福祉施設の民営化反対闘争に取り組んできた。「施設の廃止は管理運営事項であり、団交対象ではない」とする当局

の壁がある中で、障がい者団体や施設などに呼びかけ、申し入れや署名行動に取り組んだ。当初、障がい者の皆さんの反応は結構厳しいものがあつた。

「障害者自立支援法成立の過程で労働組合は何をしてくれた」「しよせん県職労はリハ職員の身分を守りたいだけではないのか」「県リハセンターは効率が悪い。重度障がい者を受け入れない」。

しかし、障自法を何とかしたいという共通した思いとリハのはたしている社会的役割を理解してくれる方々の思いで、署名に取り組んでくれる団体も広がった。

結果的には強行実施を許すこととなつたが、入所者の皆さんが、寒い冬の日にまでも積極的に街頭署名に出でる姿に現場役員のほうが、「この人たちにこんなに主体性が生まれ、生き生きと行動できる力があつたとは」と驚かされていた。失礼な話かとも思うが、脳梗塞等の後遺障がいなどによって、日頃は職員の指示に従うだけのように見えた障がい者の皆さんのどこにこんなパワーがあつたのかと、むしろ私たちのほうが勇気づけられている。これでは、後に引けないぞと話しているところである。

改めて思うのは、これが滝野さんの言われていた広範な戦線なのかということ。ここに闘う力があるのだということ。個人的にも、この闘いの過程で知り合った難病の方たちと交流を続けている。なんだか生きていくうえで力をもらっている気がする。

(山崎 秀一・高知市)

「よくやった」

一千号！ 何と重みのある響きでしょう。

発刊当初から身近にいた者として感慨ひとしおです。あらためて、社長、嘉津子さん、スタッフのみなさん本当にご苦労様です。そしておめでとございます。

ひとことではいい表せぬ歳月ですね。

“よくやった”とわが書棚にいる向坂先生が笑ってそういつています。

この写真は、先生の自宅に前国労青年部長の吉田（現書記長）・今井両氏と表敬訪問したとき私が撮った写真で、笑顔がとってもよく早速五〇〇枚作り青年部に一枚三百円で販売、足りずに一〇〇枚焼き増ししたことなど、通信一千号に私もあやかりしばしあれこれ想いをめぐらしています。

最近は通信に味が出てきて時折り感じ入ることがあります。昔の社長はテンポが速くてついでにいけず、「学者」だからとよく陰口をいつていたものですが分かっていますか？

短い文、わかりやすい解説付き、そして、読者からのおたよりコーナーは全国各地の息づかいが伝わってくるようで、とても楽しいです。そして一気に読み切れるのが私にとって最高なのです。いまや日本一のいや世界一の通信です。

前号でどなたかが月に一度の提案されていましたが、賛成です。そして
命ある限り発刊してください。

(菅原 須摩子・北海道旭川市)

千の風に乗れ！

慶祝『社会通信』一千号。

その慶び、千言万語費やせど尽くせず。

一騎当千の社主のもと、海千山千跋扈せる社会を斬ること小気味よく、千差万別の事実から掴みたる、日本あまねく取り上げたる、これ千里眼のなせる業か、はたまた千里馬の取材・東奔西走の賜物か。

社主の訪れるや、たちまち起こる一瀉千里の弁舌、

千軍万馬の援軍を得たる思い沸きあがり。

千辛万苦の民を励まし続けること重ねたる一千号。

毎号を一日千秋の思いで待つ読者もあまた。

千古不易の真理とともに、千変万化の相を映す、

千篇一律のマンネリはこれなく、

千思万考、千緒万端の遺漏もなし。

三千世界に照らすかがり火『社会通信』

末永く千客万来を祈念するものなり。

(上野 義昭・東京都大田区)

◇読者からのおたより◇

「竹さん」当選 統一地方選後半の戦いで、名寄闘争団の団員でもある「竹中のりゆき」候補が二期目の挑戦をし、一八名の定数に対し一三位当選を果たしました。昨年の旧風連町との合併により選挙区が二つに別れ、定数が二二名から一八名に削減される中、同期の現職四名も票を減らすとても厳しい選挙戦となった。(名寄闘争団)

編集部より 竹さんおめでとう。二期目の船出に乾杯！

護憲の旗掲げて 今回で四度目の選対責任者として、県下でただ一人の社民党公認候補の勝利を得る事ができました。低投票率で立候補者が多い中、前回得票を上回ることができました。岐阜の地で護憲の旗を掲げ、参議院選挙にむけ頑張ります。(岐阜・K)

編集部より 広い戦線できればいいのに。それには中心軸が不足しているということでしょうか。下からつくる他ありません。

「9条ネット・ひょうご」発足 「9条ネット・ひょうご」発足集会が開催された。兵庫でも今夏の参院選では党派を超えて共同戦線を張り、護憲勢力の拡大に向けて団結して闘うことが確認された。代表世話人には神戸空港反対運動で中心的な役割を担った中田作成氏など十一人。七月の参院選での党派を超えた護憲候補の擁立に向け、この間ねばり強く調整が行われ、「9条ネット・ひょうご」としては兵庫選挙区で原和美氏を擁立することが報告された。(兵庫・K)

編集部より 同じ日、千葉でも結成。東京は五月十二日です。

資料です 追加分資料です。選挙やら9条の会等々で休む暇もない状況です。(新潟県三条市・A)

編集部より 9条反対の意見広告、そして活動ふりがよくわかる。感謝です。

誌代切れの件です 封筒に「3月をもって誌代切れ」の押印がありました。先月の二〇日に中央労働金庫本店の口座に八四〇〇円を振り込みましたので、確認してみてください。(紋別市・I)

編集部より 確かにいただいています。バタバタしていて労金へ行くことができず記帳できていませんでした。申し訳ありませんでした。